

参考

学力向上に係る効果的な取組（人的配置関連）

※令和元年度 行田市

- | | | | | |
|-----------------|------------|-----------|---------------|-----|
| ・市費負担教職員（浮き城先生） | 18人 | ・少人数学級指導員 | 3人 | |
| ・パワーアップサポーター | 17人 | ・複式対応指導員 | 4人 | |
| この他に | ・きらきらサポーター | 31人 | ・のびのび英語ボランティア | 10人 |

1 A市

「学力向上補助員」事業

- ・人数：市全体で約100人 学校規模に応じて1～4人程度の配置
- ・採用：臨時職員として雇用
教員免許等の資格はなし 短大卒から教員OBまで年齢は幅広い
- ・勤務：1日4時間 年間171日
- ・内容：授業で個別の対応が必要な児童生徒へ学習支援をする
TT（チームティーチング）のT2（補助役）

2 B市

「生徒指導員・少人数指導員等配置」事業

- ・通称「いきいき先生」
- ・人数：市全体で58人 学校規模に応じて1～3人を配置
内訳（小学校 41人・中学校 17人）
- ・採用：教員免許等の資格はなし 20歳から退職した方まで年齢層は幅広い
募集をかけ、応募者を面接して採用している
- ・勤務：1日5.5時間 年間160日以内（週4～5日）
- ・内容：主に低学年の授業と生活面を指導
個に応じたきめ細やかな指導を行う（学校、児童生徒の実態に応じる）

3 C市

「学力向上支援員」配置事業

- ・人数：市全体で16人
小学校の学校規模に応じて1～3人を配置（平均2人）
- ・採用：教員免許等の資格は問わない（混在している）
- ・勤務：1日5時間が上限 年間140日（700時間）
- ・内容：小学校において特別な支援が必要な児童への対応
担任とのTTを実施（T2） 学級運営及び生活指導、学習指導の充実を図る

参考

学力向上に係る効果的な取組（補習関連）

※令和元年度 行田市

学校ごとに実施 例：全校一斉 ぐんぐんタイム・パワーアップタイムなど
個別対応 昼休み、放課後等に教員による補習

1 D市

「〇〇スクール」事業

場所：各小中学校

指導：有償ボランティア（教員OBや学生等）

内容：学校に一任 プリントやワークなど

形態：自学自習 参加者が、わからないところを質問する

回数：小学校は年間20回 中学校は30回 ※期日は学校に一任

対象：小学校3～6年 中学校1～3年 ※参加希望制 障害保険加入

時間：小学校は1回1時間 中学校は1回2時間程度

2 E市

「中学校放課後学習」事業

・子供たちの居場所づくりと学習支援の充実

場所：各中学校

指導：学習支援員（教員免許はなし）

内容：学校に一任

形態：自学自習

回数：月に8回（うち土曜日に2回、他6回は平日） 学校に一任

対象：中学校1～3年 ※参加希望制

時間：13：00～18：00

3 F市

夜間補習「ナイトスクール」事業

場所：市内公民館2カ所

指導：退職教員

内容：数学・英語のプリントを用意している ※自己負担金あり

形態：自学自習 参加者が、わからないところを質問する

回数：年間20回 土曜日

対象：中学校3年 ※参加希望制、保護者の送迎が必要

時間：17：00～18：50 2コマ実施